

アフリカ最高峰キリマンジャロ登頂とサファリこぼれ話

安彦 秀夫（東葛山の会）

参加者：11名（男性5名、女性6名）

東葛山の会：5名、山の会らんたん：3名、ちば山の会：2名、岳人あびこ：1名

『千葉県勤労者山岳連盟海外委員会』募集で、赤道直下（南緯3～4度）の『アフリカ最高峰キリマンジャロ登頂とサファリ』を、9月19日（火）～10月1日（日）の13日間で楽しんできました。山頂（ステラ・ポイント）に立てたのは、3名でした。

<1>まずは調査から…

キリマンジャロは、雪や岩登り等の特別な技術が無くとも登れるので、いつか登ってみたい…という思いを持っていました。また、山頂付近にある氷河が近い将来消失する…というニュースを耳にし、思い切ってチャレンジすることにしました。

複数の旅行会社に『日程、ルート、費用、参加者数』等を提示し、具体的な日程と旅行費用を提案して貰い、私の考えに限りなく近かった株式会社ワイルド・ナビゲーションに手配を依頼することにしました。

『ちばニュース3月号』で参加者を募り、私を含めて11人と参加者が決まったところで、更に旅行会社と具体的な日程や旅行費用などを詰めました。

登山は、アップダウンが多くあるものの、比較的高所順応し易いと言われる『西から南麓を歩き東に回り込み頂上を目指す』もので、キリマンジャロの眺めは素晴らしく、6泊全てをテント利用で歩く『レモショ・ルート』としました。

サファリは、林立するバオバブと大群のゾウなどを見たく、更に、比較的手ごろな料金も魅力的なタランギーレ国立公園で楽しむことにしました。

<2>キリマンジャロ登山：レモショ・ルート 9月21日（木）～27日（水）<7日間>

① 9月21日（木）レモショ・ゲート（登山口）→ムクブア・キャンプ（雨）

モシのホテルで、朝、登山スタッフ34人と合流しました。私達は、荷物を前もって3つに分けて準備をしておきました。

一つ目は、登山に不要な荷物は、スーツケースに入れてホテルに預けました。

二つ目は、ポーターに持ってもらう物（シュラフ、マット、着替え等）で、大きめのバッグに入れ、合流した登山スタッフに預けました。一人約10～15kg。

三つ目は、登山中に自分で背負う荷物（雨具・水・行動食等）で、ザックに入れました。

登山スタッフの紹介や挨拶の後、ポーターと荷物は別の車で、私達は2台の車にガイドと共に分乗しホテルを出発しました。途中、食材などを購入し、3時間のドライブで国立公園管理事務所のある『ロンドロシ・ゲート』に着き、入山登録手続きをしました。

ゲートに着く直前から雨が降り出し、手続き後、雨具を着け、再び車に乗り、『レモシヨ・ルート登山口』に移動し登山を開始しました。

雨の中、『アビシニアコロブス（体毛が白と黒のオナガザル）』の歓迎を受け、樹林帯中の『ムクブア・キャンプ』に無事着きました。

雨の中のテント泊でしたが、夜中にトイレに起きたら、満天の星空に変わっていました。
<コースタイム> レモシヨ・ゲート（登山口）14：05…ムクブア・キャンプ16：30

② 9月22日（金）ムクブア・キャンプ → シーラ1・キャンプ（晴）

ポーターが準備してくれた朝食を摂り、いざ出発。何度もアップダウンを繰り返し、見晴らしの良い峠を越え、キリマンジャロが姿を現し、荒涼とした岩交じりの高原にある『シーラ1・キャンプ』に着きました。

遅めの昼食を済ませ休憩した後、登山スタッフと私達がお互いに自己紹介しあい、歓迎の歌に続き、歌に合わせて踊りが始まり、私達も一緒に踊りの輪に入りました。

夕陽を浴びたキリマンジャロを眺めながら、高所順応を目的に1時間ほど散策しました。
<コースタイム> ムクブア・キャンプ8：25…シーラ1・キャンプ14：20

③ 9月23日（土）シーラ1・キャンプ → シーラ2・キャンプ（晴）

非常に寒い夜で、朝起きたら霜柱があり、周りの草花は白く凍てついていました。キリマンジャロ山頂の西肩から朝日が昇り、急に温かく感じてきました。

ヒース（荒地に繁茂するツツジ科の常緑小低木）の生い茂る荒涼とした高原を、キリマンジャロを正面に見ながら歩き、『シーラ・キャセードラル』への道を右に見送り、体調急変の登山者を四駆自動車運ぶための道を横切り、1本の『ジャイアント・シネシオ』の下で写真を撮り、最後の登りを終えて『シーラ2・キャンプ』に着きました。

昼食後、1時間ほど高所順応を目的に散策しました。ガイドのお薦めの『ロック・アーチ』で写真を撮り、キリマンジャロをバックに思い思いのポーズで写真に納まりました。

テントに戻り、夕陽に照らされるキリマンジャロを暗くなるまで見つめていました。
<コースタイム> シーラ1・キャンプ8：20…シーラ2・キャンプ12：40

④ 9月24日（日）シーラ2キャンプ → ラバ・タワー → バランコ・キャンプ（晴）

夜中にトイレに起きたら下痢で、その後、何度もトイレに通いました。正露丸の効果は全く現れず、今日1日が長そうです。

朝起きたら、チーフ・ガイドのMr. マテイから『ハウ・アー・ユー？』と、いつものように聞かれました。しかし、『ファイン！』とは答えられず、下痢の状況を話しました。

前日に続き荒野を歩き、砂礫の道を進み、見晴らしの良い峠で、ガイドが持って来てくれた昼食を摂りました。トイレブースに寄り、岩の道を登り切って『ラバ・タワー4600m』へ。多くのハイカーが休憩していました。ここでも、トイレブースに寄りました。

岩の道をぐんぐん下り、『ジャイアント・シネシオ』が林立する道を更に下ると、色とりどりのテントのある『バランコ・キャンプ』が見えてきました。

受付を済ませ、マイ・テントへ。荷物を整理し、食事用テントでお茶を飲んでいたら、イギリス人登山ガイドが来て、私の下痢の症状を確認し薬を分けてくれました。登山ガイドの Mr. フォーカスが心配してくれて知り合いのガイドを呼んでくれたようでした。薬は、『アジスロマイシン（イギリス製）』と『生理食塩水（ネパール製）』でした。外国製の薬は即効性がある…ということをもっと信じていましたので期待しました。

<コースタイム> シーラ 2・キャンプ 7:55…ラバ・タワー 12:50-13:05…
…バランコ・キャンプ 14:55

⑤ 9月25日（月）バランコ・キャンプ→ カランガ・キャンプ→ バラフ・キャンプ（晴）

小さな氷河が張り付いたキリマンジャロの南壁を見上げて1日が始まりました。

まずは、垂直とも思われるような岩壁『バランコ・ウォール』を慎重に登り、岩の稜線を進み、峠を2つ越えてカランガ川で小休止し、最後の急坂を登り切って、『カランガ・キャンプ』に着きました。温かい昼食を摂り、再び延々と続く緩い登りを辿り、峠で休憩後、『バラフ・キャンプ』に着きました。何とか下痢は収まってくれたようでした。

夕食時に、『山頂アタック希望者は、22:30に食事用テントに集合する』ことを確認し、テントに戻り仮眠しました。この時点での希望者は、9人でした。

<コースタイム>バランコ・キャンプ 7:55…カランガ・キャンプ 12:15-13:10（昼食）
…バラフ・キャンプ 16:30

⑥ 9月26日（火）バラフ・キャンプ → ステラ・ポイント 5756m

→ バラフ・キャンプ → ムウェカ・キャンプ（晴）

食事テントに集合したのは、6人でした。ヘッドランプの灯りを頼りに、ガイドと共に出発。ゆっくりゆっくり進み、直ぐ上のキャンプ地（名前を聞きましたが忘れました）を過ぎた頃より足取りが遅くなり始めました。2人がゆっくり登るということで分かれ、続いて1人も下山を決意し、結局、3人とガイド1人の4人が残りました。この先1人でもギブアップしたら、その時点で下山する…という状況になりました。

マウエンジ峰から昇る朝日を背に、足取りは遅いものの確実に登り、レモシヨ・ルートの山頂『ステラ・ポイント 5756m』に登り切りました。ヤッター！4人で円陣を組み登頂を祝し、山頂標識の前で記念写真に納まりました。

体力と時間の関係で、『ウフル・ピーク 5896m』には足を延ばさず、皆が待つキャンプに走り下りました。アタックしなかった5人は、先に降りたようではありませんでした。

仮眠をとる間もなく昼食を摂り、荷物を纏め、『ムウェカ・キャンプ』に下りました。

<コースタイム> バラフ・キャンプ 23:10…ステラ・ポイント 7:10-7:30

…バラフ・キャンプ 10:20-12:15（昼食・撤収）…ムウェカ・キャンプ 16:10

⑦ 9月27日（水）ムウェカ・キャンプ → ムウェカ・ゲート（下山口）（晴）

ゲートまで緩い平坦な道…ということでしたが、樹林帯のかなり傾斜のある下りの連続で、時々、樹林の間からキリマンジャロが見え、立ち止まり振り返り見ました。

林道に降り立ち、小さな石ころのある道を下り、『ムウェカ・ゲート』に着きました。歩き通した感激を胸に標識の前で記念写真を撮り、管理事務所で下山の記帳をしました。

登山スタッフ 34 人のサポートに感謝し、一人一人に固い握手を交わしながらチップを渡しました。それに応えて歌と踊りで私達の健闘を讃えてくれ、一緒に踊りを楽しみました。

迎えの車でモシのホテルに行き、『登頂証明書』3 枚を貰い、前日に降りた 1 人とも合流でき、サファリカー 2 台に分乗しタランギーレに向かいました。

<コースタイム> ムウェカ・キャンプ 7:00…ムウェカ・ゲート 10:10 (下山届・解散式)
ゲート 11:00⇒モシ: マウンテン・イン 11:50 (荷物受取) 13:00⇒

登頂者 3 名と現地ガイド



ステラポイント (5756 m)

<3>サファリ: タランギーレ国立公園 9月27日(水)~29日(金)

① 9月27日(水) モシ: マウンテン・イン → タランギーレ・シンバ・ロッジ (晴)

夕方、マサイ族(?)の待つロッジに着きました。しかし、準備されていたのは、『ダブルベッド1台の部屋』であったため、『ベッド2台の部屋』に変更して貰い、夕陽が沈みかける頃、やっと各ロッジ(部屋)に案内されました。

夕食では、無事キリマンジャロ登山を終えたことを祝い、登山スタッフやサファリカーのドライバーのお薦めの『キリマンジャロ・ビール』で乾杯しました。旨い!

<コースタイム> マウンテン・イン 13:00⇒タランギーレ・シンバ・ロッジ 17:50

② 9月28日(木) サファリ1日目 (晴)

双眼鏡を首から下げてサファリカーに乗り込み、サファリがスタートしました。

ずーっと見たかったバオバブの木々が目の前に…。直ぐにインパラやシマウマを見て興奮!ゾウの親子連れやキリンも…。ライオンが獲物を捕らえて食事中!それを周りの動物や鳥が遠巻きに囲み、おこぼれを待っているようでした。群れを成しているバッファローやヌー、昼寝中のチーター(?)、ブッシュバック、イボイノシシ、ダチョウの夫婦、群れを成して大空を飛び回るホワイトペリカン、サファリカーの前を横切るシママングース。

素敵な昼食を挟んで、丸々1日のサファリを堪能しました。

<コースタイム> ロッジ8:10⇒(昼食11:50-13:00)⇒ロッジ16:45

③ 9月29日(金) サファリ2日目 (晴)

ロッジの前でマサイ族と一緒に記念撮影をした後、2日目のサファリに出ました。前日と違うコースを走り水辺へ。シマウマやバッファローなどが川に入り水を飲んでおり、遠くで、バッファローが行列になり、向こう岸に移動していくのが見えました。

サファリカーを走らせたところ、バッファローの大群が列をなして移動しているところでした。それも延々と…。足音!土埃!うめき声!サファリカーの直ぐ目の前に広がる光景に大興奮してしまいました。

アルーシャへの帰りの途中でコーヒー園に寄り、産地直売のキリマンジャロ・コーヒーをお土産に買いました。サファリカーの車窓からは、コーヒーの白い花が見えました。

<コースタイム> ロッジ8:10⇒(昼食12:00-13:00)⇒コーヒー園14:50-15:30
⇒アルーシャ・ホテル16:00

<4>食事はどうだった…?(ホテル、ロッジ、登山中)

最初の夜のホテルでの夕食の『牛肉』には参りました。固過ぎて切るのに苦労し、やっとなら入れたものの噛み切れず半分以上を残しました。魚のカレーを頼んだ人は美味しく食べられたようでした。翌日の朝食は、美味しかったです。

他のホテルとロッジでの食事(どちらもビュッフェ)も美味しかったです。また、サファリ1日目の昼食は、とても美味しく感激しました。大自然の真ただ中でやさしい風が吹き、木陰でいつまでものんびり昼寝でもしていたい気持ちになりました。

登山中の食事も、食材に制限がある中で、まあまあだったと思います。但し、連日の食パンには辟易しましたが…。

<5>登山中のトイレは…?

キャンプ地のトイレ全てが、『金隠しの無いどちらが前なのか分からないボットン便所』でした。大と小を同時にすることに違和感を抱きながらも何とか済ませました。

あるキャンプ地は、ゴツゴツした岩交じりの傾斜地で、トイレが高い所にあり、夜中にテントからトイレに行くだけでも息が切れてしまいました。何せ4000mの世界ですので…。

また、初日の林間のキャンプ地では、夜中にトイレに行き、テントにスムーズに戻れない人がいたようです。何度も行ったり来たりを繰り返し、やっとテントに戻れた人や、テントに戻ることを一瞬諦めかけた人もいたほどでした。

<6>体調はどうだった…?

心配した高山病でしたが、幸運にも、頭痛、吐き気、不眠、呼吸困難などの症状を殆ど感じることはありませんでした。しかし、登山3日目の夜から頂上アタック前日まで下痢に悩まされ、その後は、激しい胃痛に襲われました。酷い時は、あまりの痛さでテントの

中で悶えていました。イギリス人ガイドから貰った下痢止め薬の副作用では…とっています。胃痛は帰国後3日目にやっと無くなりました。

他の参加者も程度の差こそあれ、頭痛、嘔吐、下痢などの症状があったようです。

今回初めて、高山病予防薬(?)として『ダイアモックス』を医者から処方して貰い持って行きましたが、飲むタイミングを逸して飲みませんでした。

<7>飛行機乗り継ぎ&復路搭乗手続き

ドーハ空港(カタール)で往復とも乗り継ぎをしましたが、非常に大きな空港で、往路での乗継ぎ時間が5時間半と長かったため、搭乗ゲート案内が直ぐには表示されず、やっと出発3時間前に表示され移動できました。

復路では、乗り継ぎ時間は2時間半ほどで、往路での経験もあり、余裕を持って行動でき、時間を有効に使って、皆それぞれがお土産を購入できたようでした。

帰りのキリマンジャロ空港では、手荷物・機内預け荷物検査、チェックイン、荷物預け、出国手続き、そして再び手荷物検査を経て、やっと搭乗待合室に着いたと思ったら、既に搭乗が始まっており、『間もなく搭乗終了!』という係員の声に促されて、コーヒーのみを買って飛行機に乗りました。

<8>宿泊(ホテル、ロッジ、テント)は、快適…?

今回は、ホテル1泊、テント6泊、ロッジ2泊、ホテル1泊の順での現地10泊でした。

最初のホテル『マウンテン・イン』は、コテージ風の部屋で、窓ガラス(ルーバー)は壊れ、夕食後に強い雨が降ってきた時は慌ててしまいました。でも雨は入りませんでした。

最後のホテル『アルーシャ・ホテル』は、リニューアルしたばかりで、広く落ち着いた雰囲気を見せており、参加者からは、『いつも最後のホテルは豪華ですね!』という言葉が寄せられた程でした。

ロッジは、タランギーレ国立公園に接した広い荒野にテント仕立ての建物が一棟ずつ離れるようにあり、公園にはフェンスが無く、野生動物の往来はごく当たり前で、昼夜、銃を持った係員が巡回していました。

テントは、2人用テント6張りで、私達が出発した後に撤収し、次のキャンプ地に私達が着いた時には既に張られている…という繰り返しでした。登山スタッフに大感謝です。

<9>巨大植物に魅せられて…

今回、是非とも見たかった巨大植物は、2つありました。

『ジャイアント・シネシオ』は、登山4日目の『バランコ・キャンプ』手前の谷を下る際に、山の斜面一杯に林立していました。過酷な気象条件の中で、これほど大きく(高く・太く)成長するには大変だろうなあ…と改めて思いました。

『バオバブ』は、15年程前に、アメリカの『ディズニー・ワールド』のアフリカゾーンで見た時の印象が強烈で、いつか群生するバオバブを見てみたい…と思うようになりました。それで、今回のサファリは、バオバブが多い『タランギーレ』に迷わず決めました。

多くの巨大なバオバブが堂々と立っており感激しました。空洞のあるバオバブでは、その中に入り写真も撮りました。あの一種独特な姿（形状）に、改めて心を魅かれました。

<10>チップはいくらなの…？

いつも海外旅行をする際に頭を悩ませることの一つに、『チップ』があります。日本には無い制度なので、皆さんも同じ思いをしているのではないのでしょうか？

今回特に悩んだのは、『登山スタッフ』と『サファリ・ドライバー』へのチップで、旅行会社から具体的な提案をしていただき、それに沿って、予め封筒に入れて準備をしました。

登山スタッフ 34 人には、下山後の別れの時に一人一人に手渡しました。

- ・チーフ・ガイド（1 人）USD100-、
- ・アシスタント・ガイド（4 人）USD70- ×4、
- ・チーフ・コック（1 人）USD40-、
- ・アシスタント・コック（1 人）USD35-、
- ・食事時のウェイター（2 人）USD35- ×2、
- ・一般ポーター（25 人）USD30- ×25

また、サファリ・ドライバー 2 人には、タランギーレ往復やコーヒー園への立ち寄り、空港への送迎、そして、感動の『バッファローの大群の大移動』等に感謝して、1 人『USD80-』と奮発しました。（cf. ミネラルウォーター 1.5L=USD1.3/一般の店~2.0/ホテル）

<11>入出国カード記入は…？

これまでは、飛行機内でカードが配布されていましたが、今回は配布されず、入国検査直前の、なんとなく急かされた雰囲気の中での記入となりました。

しかも、ガイドブックや旅行会社から貰った記入例と異なった書式のカードで、記入例に沿って下書きをして心の準備をしてきた人にとっては、想定外の結果となりました。

同様に、帰りも慌ただしい中での出国カードの記入となりました。

<12> 旅行会社日程表などと違うが…

『キリマンジャロ下山日の昼食』、『タランギーレ・シンバ・ロッジの部屋』、そして、『アルーシャ・ホテルの昼食』等が、旅行会社から送られた日程表と異なっていました。

具体的には、昼食 2 食は、日程表には『×』になっていましたが、素直にホテルからの申し出を受け入れました。また、部屋については、交渉は難航したものの『各部屋ダブルベッド 1 台』から『各部屋ベッド 2 台』に変更して貰いました。

タンザニア最後の食事になったアルーシャ・ホテルでの昼食は、ステーキ等を注文したのですが、なかなか運ばれてこなく焦りました。催促をしてやっと出てきました。そのため、ホテル発が 1 時間遅れてしまい、キリマンジャロ空港での出国手続きに影響しました。でも、何とか飛行機に乗り込むことができ、帰国の途に就けました。

<13> 登山を終えて

帰りの飛行機から、夕陽に照らされているキリマンジャロ頂上付近を望むことができ、アタック時の事を思い出しながら、窓に額を着けてジーンと見つめていました。

山頂（ステラ・ポイント）からの展望を体感できたのは僅か 3 人でしたが、日中は、キ

リマンジャロを見ながら歩き、テントからは、朝焼け・夕焼けの雄姿を堪能することができました。

また、サファリでは、思ってもいなかった『バッファローの大群の大移動』や『水辺で獲物を射止めて食べているライオン』等のタンザニアならではの貴重な一瞬に接することもできました。

登山中は、参加者の皆さんの体調変化や悩みなどに十分に配慮が行き届かず、時々厳しいことを言う場面もありました。それにも拘らずご協力をいただき、大きな事故もなく帰国することができ、企画者としてホッとしています。

敢えて苦言を呈するとすれば、今回のような高所登山に対しての心構え・準備は適切であったのか…を、参加者各人が再度考え、今後の山行に活かしてほしいと思います。

最後に、貴重な思い出を共有できました同行の皆様に感謝申し上げます。

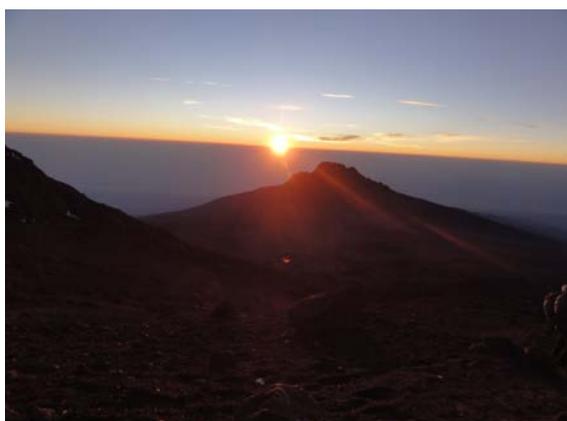
(2017/10/19/Thu.)



モシ・マウンテン出発風景



モシ：マウンテン前にて



キリマンジャロの日の出



シーラ1キャンプよりのキリマンジャロ

あまり知られていないと思いますが、千葉県連には海外委員会があるのです。県連創立50周年記念事業で、バリ島の3山登山が最初の取り組みです。

今後、会員の皆様の海外登山やトレッキングのお手伝いをしていきたいと思っています。海外登山活動や高度障害などの情報交換や学習会を計画して行きたいと思っています。海外の経験者、興味のある方の参加協力を待っています。

連絡先：安彦：mt25hm4abichan49@gmail.com 広木：danphiro@zpost.plala.or.jp